

バイブルスタディ Pastor JD Farag

2018. 09. 02

エペソ人への手紙 6:10-12 — “サタンの攻撃” の真実を暴露—

.....

使徒パウロは聖霊によって、エペソの教会にこう書いています。

エペソ 6:10-12

- 10 終わりに言います。主にあって、その大能の力によって強められなさい。**
- 11 悪魔の策略に対して堅く立つことができるように、神のすべての武具を身に着けなさい。**
- 12 私たちの格闘は血肉に対するものではなく、支配、力、この暗闇の世界の支配者たち、また天上にいるもろもろの悪霊に対するものです。**

Against (対抗して)という言葉が 5 回も出て来ます。(＊英語の聖書)

私はこの言葉が好きではありませんが、天の領域にいる悪の霊的力に “対抗して”、神が私たちの理解を祝福して下さるように一緒に祈りましょう。

愛する天のお父様、みことばをありがとうございます。

今日、私たちの前にあるこれらのみことばに感謝します。

主よ、あなたが必要です。

私たちの心を落ち着かせ、完全に集中できるように導き、みことばを通して私たちのいのちに語って下さい。

そうして下さらないと、今日、あなたが用意して下さったことを見失ってしまいます。

誰もそんなことを望みません。

主よ、あなたはいつも誠実で、私たちのいのちにはっきりと語って下さいます。

みことばを通し、イエスの御名によってお祈りします。アーメン

今日は、クリスチャン生活に於ける “サタンの攻撃” の現実についてお話します。

きっと皆さんも私と同様に、イエス・キリストを知って救われて、「霊的戦いは、まさに現実の事なんだ」と認識するまで、さほど時間はかからなかったのではないかと思います。

多分これもまた同様に、想像もしていなかったことのために、「不意打ちを食わされた！」と思ったでしょう。

主を愛するゆえに熱心に主に仕えていたら、どこからともなくサタンが攻撃して来る。

「これは何だ!?!」

以前お話しましたが、私は、特にここからの節を学ぶことを、かなり前からずっと楽しみにしていました。

神はクリスチャンたちの人生に、エペソ書のこの最後の箇所を、目的を持ってパワフルに働かせています。

それで、私は祈りをもって、注意深く、慌てずにじっくりと、十分な時間をかけて、この学びを進めていきたいと思えます。

始める前に、今日の学びを理解するのに密接な関係のある、大変重要な事実を指摘しなければなりません。

それは、サタンは非常にパワフルだということ。

しかしサタンが、神とは対極だが対等だ、と信じるのは大変な間違いです。

彼はそうではありません。

サタンは全知全能ではなく、どこにでも同時に存在できる遍在では決してありません。

神だけが全知全能、遍在なのです。

それを知らないので、「先週ずっとサタンに縛られていたんだ！」なんて言う。

「ほんとに? サタンそのものが? スゴイね! サタンがオアフ島のカネオヘにいて、キミを攻撃してるんだ!

へえー! キミは大物に違いない。」違います。

サタンは悪霊を遣わすことはできますが、サタン自体は二つの場所に、同時に現れることはできません。

それは、神だけができる。

これから見ていきますが、パウロがここに挙げている実在するものが、クリスチャンに対抗して策略し、攻撃し、霊的にも攻撃を仕掛けるのです。

問題はこれ。

非常に重要なので、最初からそれに取り掛かります。

私たちはサタンが持っている力を誇張することもできるし、控えめに言うこともできます。

しかし、クリスチャンが極端にどちらかに偏ることほど、サタンが喜ぶことはありません。

なぜなら、それ自体が、彼の数多い成功の一つだから。

もう少し詳しく説明しましょう。

私たちがサタンの力を低く見積もるなら、不意打ちを食らいます。

サタンがやっているキャンペーンの中で最も成功しているのは、人々に「サタンは存在しない」と信じさせること、または、角があってフォークを持ち、赤いタイツをはいた小さな生き物だと思わせること。

どうか、このイメージを頭から消し去って下さい。

サタンは自分が何者で、どんなに力を持っているかを、私たちに考えさせないように上手くやっています。

それとは逆に、自分の力を人間が誇張するようにもしています。

これも危険です。私たちは恐れの中で麻痺し、動けなくなるから。

私たちはサタンを過大評価していますが、だからと言って、サタンが強くないという意味ではありません。

非常に力があります。

ただ、全能ではないということです。

ウォーレン・ウィズビーの言葉だったと思いますが、「サタンは、神のサタンである。」

サタンは神の被造物であり、彼ができることには制限があるのです。

この学びを一緒にしている方は、興味深く、面白くて魅惑的なヨブ記の学びで見た通り、神の許可がなければ、サタンはヨブの髪の毛1本でさえ触れることができませんでしたね。

神がサタンに許可を与えるのは、最終的に、神の目的であるご自分の栄光とヨブの祝福に繋がる時だけです。

何であっても、神の栄光と私たちの祝福にならないことには、神は決してサタンに許可を与えません。

これが真実。

このことは、多くの人たちに大きな慰めとなるはずですよ。

主との歩みの中で学んだことの一つは、サタンの攻撃についてメッセージを準備している時に、その攻撃に遭うということ。

「冗談でしょ！」いいえ、本当です。

サタンが、物理的にはっきりと現れる。つまり、そこにいる。

「へえー。私について話すのか。日曜日に。」

「またお前か。そうだ。話す。…下がれ！」

私が学んでいるのは、クリスチャンがサタンを恐れる以上に、サタンがクリスチャンを恐れるべきだということ。

サタンは敗北した敵です。それを間違っただけではありません。

サタンはそのことを分かっている、あなたには知ってほしくないのです。

あなたを欺いて、あなたがサタンに負けていると信じさせようとする。

それは、自分の人生の支配権をサタンに与えてしまうことです。

私たちがサタンにそれを与えなければ、彼は無力。そうです。
まだ、「そうかな…」と首をかしげている人もいますけど。

確かに、サタンは私たちに對抗する武器を作ることができます。

しかし、**あなたを攻めるために作られる武器は、どれも役に立たなくなる。(イザヤ 54:17)**

なぜなら、**あなたがたのうちにおられる方は、この世にいる者よりも偉大だからです。(Iヨハネ 4:4)**

サタンは、私たちにそれを忘れてほしい。

私たちに何かを仕掛ける時、このことに気づかないでいてほしいのです。

次に、パウロが聖霊に導かれて選び用いた、いくつかの言葉に注目していきましょう。

まずは、10 節で使われている興味深く、重要な言葉。“最後に”

パウロがエペソ人への素晴らしい手紙を、最重要としている真理で締めくくろうとしていることが分かります。

それは、私たちにも与えられました。

パウロがこの書簡の結びに書いた真理が、霊的戦い、つまりサタンの攻撃であることは興味深い事です。

それまで彼の観点で書いてきた内容にも拘わらず、最後がこの事だったのです。

私はエペソ書が大好きです。

はじめの 1-3 章は、キリストにある私たちに与えられている、壮大で素晴らしい全ての富に関する事だから。

神が、キリストにある私たちにして下さった全て。

キリストの中にある私たちに起ころうとしている全て。

イエス・キリストのお陰です。

そして終わりの 4-6 章は、神が私たちにして下さった全てのことについての私たちの応えです。

しかも、“クリスチャンの結婚、クリスチャンとしての子育て、クリスチャン従業員、クリスチャン雇用者、聖霊に満たされること”という重要な論点について語った後に、サタンの攻撃が書かれているのは興味をそそられませんか？

パウロは聖霊に導かれて、そのように締めくくりました。聖霊がそうさせたのです。

それだけでなく、“何を” “なぜ” するべきか、そしてもっと重要な “どのように” するべきかを伝えています。

みことばをバラバラにして話すことを許して下さい。

特定のみことばを見ていくのは、今日理解することと密接な関係があるからです。

① 何をすべきか。

主にあって、その大能の力によって強められなさい。(エペソ 6:10)

私たちがすべきことは、主にあって、その大能の力によって強くなること。

② なぜすべきか。

悪魔の策略に対して堅く立つことができるように (エペソ 6:11)

その理由は、私たちが立つため。立たなければならない。

走るのではなく、倒れるのでもなく、立つ。

自分の強さによるのではなく、主の強さによって。自身の力ではなく、主の力で。

③ どのようにすべきか

神のすべての武具を身に着けなさい。(エペソ 6:11)

それは、祈りによってなされる。祈ること。

これらの武具、“救いの兜、正義の胸当て、真理の帯、平和の福音の備えのはきもの、信仰の盾、そして御霊の剣”

暗記していますよね。(エペソ 6:14-17)

でも、パウロが「祈り」と言う箇所に来ると、私たちは少し引いてしまいます。

あらゆる祈りと願いによって、どんなときにも御霊によって祈りなさい。(エペソ 6:18)

どのように武具を身に着けるか、気づきましたか？

最近考えていたのは、「私の人生の全ての祝福は、どのようにして与えられたのか。」

それは、祈りによってです。

祈りによって人生に与えられる祝福以外に、良いものは何もない。

祈りによって与えられたもの以外で、良いものだと指さして言えるものは、人生に一つもありません。

私と妻は11月に結婚30周年記念を祝います。

それで、妻のためにどのように祈ったかを思い、旧約聖書と新約聖書のみことばを考えていました。

妻を見つける者は幸せをみつけ(箴言 18:22)

人がひとりでいるのは良くない。(創世記 2:18)

祈りによって…私の人生に於いて、良いものは全て、祈りで与えられたのです。

そこで、この書簡を終えるにあたり、神の武具に関連して、祈りの力についてお話しします。

① 主にあって、その大能の力によって強められなさい。(エペソ 6:10)

これが何を意味しているのかを理解しなければなりません。

私たちは、このみことばを口にするし、歌うし、知っていて暗記もしています。

だけど、本当の意味を、本当に理解しているでしょうか。

強さと力には違いがあります。

一つ例を取って説明しましょう。

すごく筋肉隆々の男性がいるとしましょう。

彼を外側から見る時、強さを見ますが、彼の力はその筋肉を使った時に現れる。

あなたは彼を見て「うわー。彼は本当に強い。」と思いますが、その力は使わなければ分かりません。

主にある私たちの霊的な強さに関しても同じです。

主の大能の力は、それが使われた時に現れ、また、現されるのです。

私は主にあって強くなれる。でも、主の力の強さは使うまで現れません。

「主にあって、その大能の力によって強められなさい。」を理解することは非常に重要です。

あなた自身の力では、サタンと悪霊に抵抗することはできません。

しかし、サタンは、神の力ある聖霊に打ち勝つことはできません。

パウロが言った**「私が弱いときにこそ、私は強い」(Ⅱコリント 12:10)**の意味を考えてみましょう。

彼が気づいたのは、自分の弱さをはっきり知ると、その弱さの中で完全に、全面的に、主の強さの下により頼むということ。

ダビデがツィケラグへ戻る時、妻や子供たちがさらわれ、捕虜にされ、居住地は焼き払われ、ダビデに忠実に仕えていた僕たちまでが、彼を殺そうとしました。

しかし、ダビデが人生で最も弱っていた時、その時、彼は主にあって、自分自身を強くしたのです。

どういうことでしょうか。

人生の中で、特に霊的なサタンの攻撃に遭っていたり、霊の世界の戦いの下にいる時にあなたにできるのは、みこと

ばに浸り、みことばをつかんで自分のものとする事。

みことばがあなたのものになっている時、それはあなたを強め励ます。

信仰は聞くことから始まります。

聞くことは、キリストについてのことばを通して実現するのです。(ローマ 10:17)

これは真実だと思いませんか？

みことばは強さをもたらし、信仰を強くし、励まして、あなたは信仰に力を得るのです。

ここから、②の“なぜ”に繋がっていきます。

あなたが主にあつて、主の大能の力によって強められている時、“対抗して”（ここにも、この言葉が出てきました）、悪霊の企みに対抗して立つことができます。

私たちは悪霊の餌食にはなりません。

なぜなら、悪霊の企みに対抗して立つことができるから。

ところで、エペソの人たちは、サタン攻撃と悪霊に憑かれることについて、いくつか知っていました。

使徒の働き 19 章に、エペソの信仰者の多くが、悪霊に憑かれていたところから解放されたと記されています。

エペソは呪文書で非常に有名で、当然、ダイアナ神殿（アルテミス神殿）では、言葉にできないほど恐ろしい悪霊的な、まさしくサタンの礼拝が行われていました。

エペソの人たちは、そういう状況から抜け出たのです。

では、③の“どのように”に飛びます。

これに時間をかけます。私にとって、最も重要だから。

言っておきますが、サタンは今日の教えを、あなたには絶対に聞かせたくなかったのですよ。

サタンは今でさえ、今日この後にする事や、今週のあれこれを思い出させて、あなたの集中の邪魔をしています。

どうか、その手に乗らないで下さい。

このメッセージを準備している時、彼は実際、私にそうしたのでありますから。

だから、どうか、これからお話する事にしっかりと集中して、考えて下さい。

一番大事なことは、敵がどういうものなのか、どういうものでないのかを知ることです。

ここの祈りの中に、“格闘”という特定の言葉が出て来ます。

私たちの格闘は血肉に対するものではなく、支配、力、この暗闇の世界の支配者たち、また天上にいるもろもろの悪霊に対するものです。(エペソ 6:12)

もっと良い翻訳は“wrestle”（取っ組み合う）

wrestling（レスリング）とは、フルコンタクト（力を抑制せず、相手に直接接触する）の疲労困憊するスポーツ、奮闘することです。

私たちは、取っ組み合いをしているということ。

私には、使徒パウロが神の御霊によって伝えていることがよく分かります。

ヤコブが一晩中、主と取っ組み合いをしたことを考えて下さい。

あれはイエスでした。

顕現（旧約聖書時代に、神が人間の姿をし、見える形で現れたこと）と言って、ベツレヘムで生まれる前のイエス・キリストです。

イエスは全力で、直に、ヤコブと取っ組み合いをしています。

となると、ここで使徒パウロが言おうとしていることの意味合いが変わって来ませんか？

彼が言っているのは、「私たちは、霊の領域にいる異なるランクの具体的な存在と、全力で、直に取っ組み合いをしている」ということ。

対人間ではないのです。

パウロはこれらを、①支配、②力、③暗闇の世界の支配者たち、④天上にいる諸々の悪霊 と列記しています。かなりのものですね。

まるで軍隊みたいに特定の階級があって、下の階級を支配する上位の階級があり、権威が与えられている。

サタンには手下の悪霊たちがいて、天の霊の領域で、彼らに権威を与えています。

サタンは悪霊たちに任務を授けているのです。

神は、私たちの人生に計画を持っています。

サタンもそうです。

策略に基づいて、手下の悪霊たちを動かしています。

サタンの計画、目的、策略とは、“盗み” “殺し” “滅ぼす” こと。

この順番に注目して下さい。

サタンは、あなたの人生を破壊したい。あなたが勇敢であることを憎んでいて、それが大っ嫌い。

サタンはあなたを、あなたの全てを憎んでいます。

なぜなら、彼はイエス・キリストを憎んでいるから。

だけど、イエスは勇敢なあなたを愛していますよ。

もう一つ焦点を当てたい特定の言葉は“策略”

別の訳では“悪魔の策略” (エペソ 6:11)

私はこちらの方がちょっと好きですが、普通は策略というのは使いませんね。

誰かがその言葉を使っているのを想像できますか？

策略とは戦略。サタンの巧みな策略。

これには“コソソリ” という意味が含まれていて、本当に巧妙なのです。

蛇は、神である主が造られた野の生き物のうちで、ほかのどれよりも賢かった。(創世記 3:1)

巧みで戦略的な、這いずり回る蛇！

私が強調するのは、サタンが巧妙なので察知されず、私たちが気づかないからです。

これがまさに、サタンがしていること。

サタンが最も成功している事は何か。

残念ながらたくさんありますが、クリスチャンに対抗して最も成功したサタンの策略、戦略は、自分が見つからないようにして、その人を破滅させること。

それが少なくとも、彼のリストの中でトップです。

サタンは非常に巧妙に行うので、私たちには、それがサタンの仕業だとは分からないのです。

あなたの人生の中で、困難な状況の背後にいるのはサタンです。

あなたは、他人のせいにしますが違いますよ。

他人ではなく、その人を通してサタンがやっているのです。

「でも、彼らはクリスチャンじゃないか!?!」 それなら尚のこと悪いです。

「先生は、サタンがクリスチャンを通して働くと言うのですか？」 そうです！

II テモテ 2 章で、パウロは牧師のテモテに勧告しました。

II テモテ 2:23-26

23 愚かで無知な議論は、それが争いのものであることを知っているのですから、避けなさい。

私は神のみことばの正直なところが大好きです。

24 主のしもべが争ってはいけません。むしろ、すべての人に優しくし、よく教え、よく忍耐し、

25 反対する人たちを柔和に教え導きなさい。

神は、彼らに悔い改めの心を与えて、真理を悟らせてくださるかもしれません。

26 悪魔に捕らえられて思いのままにされている人々でも、目を覚まして、その罠を逃れるかもしれません。

「テモテは牧師だよ。これが教会に、クリスチャンに書かれている!? そんなバカな!」

「教会のクリスチャンが目ざめて、サタンの罠を逃れる必要があるの!?!」

そうです。サタンに捕えられて、思うままにされているから。

「この箇所に来るまでは、大丈夫だったんだけど…」と言いたげな目で私を見ている人がいますが。

これは、多くのことを語っていると思いませんか?

ポイントはこれ。

サタンは非常に巧妙に、分からないようにクリスチャンを捕え、意のままにする。

それで今、私たちはサタンとではなく、他のクリスチャンたちと取っ組み合いをし、もがきながら戦い、口論している。

敵はサタンです!

間違った戦いに挑むなら、間違った敵に対して戦争するなら、勝利の杯を飲むチャンスは絶対にありません。

サタンは実にそれを望んでいます!

任務完了!そして残りの時間は休暇を取る。いや、取りませんが。

サタンは教会でそれをしますよ。

そう、教会が代表するもののゆえに、教会を憎んでいるから。

皆さん、誤解しないでほしいのですが、サタンはこの教会をとっても憎んでいます。

ここは、互いに愛し合う教会だから。

「互いの中に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるようになります。」(ヨハネ 13:35)

「彼らの互いの愛の交わり、あれは、イエスの弟子に違いない。」

サタンはそれを憎んでいます。

さて、とても魅力的な所、ピリポ・カイザリヤでの出来事です。今度、イスラエルに行った時に訪れますよ。

エルサレムに行く少し前に、イエスは尋ねました。

「人々は人の子をだれだと言っていますか」(マタイ 16:13)

それから弟子に、「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」(マタイ 16:15)

ペテロが正しい答えを言います。

「あなたは生ける神の子キリストです。」(マタイ 16:16)

「ペテロ、良い答えだ!」

「そこで、わたしもあなたに言います。あなたはペテロです。わたしはこの岩の上に、わたしの教会を建てます。」(マタイ 16:18)

いいですか。これはカトリックの教会ではありません。

ペテロが他の弟子たちを、得意満面で見ているのが想像できますよね。聖書には書かれていないけど。

彼は、イエスが嵐のガリラヤ湖で、船上のペテロに言った時と同じような事をしたんじゃないでしょうか?

ペテロは「私に来るように命じて下さい。」イエスは「来なさい。」

それで、彼は船から踏み出し、水の上を歩いていましたが、主から目を離してしまいました。(マタイ 14:24-30)

そこで私は思うのです。深読みし過ぎているのかもしれませんが。

ペテロがイエスから目を離したというのは、振り返って仲間たちの方を見たんじゃないか？

「ヘイ！ みんな見て！ 水の上を歩いてるんだ!! ♪~♪~♪~」

そして、沈んだ。

天国に行ったら分かることですから、いいんですけど。

この後のマタイ 16:23 の記述には、かなり驚愕しますよ。

ペテロは、イエスがキリストであると正しく答えた後、イエスが彼をほめた直後に、主が「十字架にかかる」と言ったことに抗議しました。

その時、イエスがペテロに言ったことばは、「**下がれ、サタン。**」(マタイ 16:23)

そうです。

「あなたは、わたしをつまずかせるものだ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」(マタイ 16:23)

分かりましたか？

サタンが最も避けたかったのは、イエスが十字架にかかることです。

なぜなら、あの十字架で、イエスが永遠に全人類の罪の代価の全てを支払うから。

そして、復活の勝利をもって、サタンに「おまえは負けた敵だ！」と言い渡すから。

サタンはそれを阻止するために、あらゆることをしました。

ペテロを捕らえ、彼の心を自分の策略で満たして、意のままにしたのです。

まとめます。

悪霊は、人々や状況に影響を及ぼし、私たちが敵に対してではなく、血肉の者に対して取っ組み合いをするようにさせます。

それが今日のトピックです。

ところで、あなたは主の権威ある力によって、誰が敵であるかを知らなければなりません。

これは、主にあって強く立つための最初のステップです。

これが絶対に必要です。

武具の箇所でもたお話しますが、これが霊的洞察力、霊を識別する力に関わってきます。

終わる前に、もう少し説明すべきかと思います。

たとえば、あなたは大変困惑する問題、とても気がかりで、ストレスがたまる人生の大問題を抱えていて洞察力が必要…もう少し具体的に言います。

日々過ごしながら、すべてが上手くいっている時、突然、恐れがどこからともなくあなたを襲う。

「えっ？ これはどこから来たんだ!?! 何なんだ!?!」

あなたを襲っている恐れの原因を見極めるためには、霊的な洞察力が必要です。

それは、どこからともなくやって来たけど、もしかすると、サタンが悪霊を使って、恐れをあなたを攻撃しているのかもしれない。

それをはっきりと見分けることが、敵を打ち破るための第一のステップです。

それをせずに敵の手に落ちるのか、そのためにバラバラに崩壊するのか、そのために無力になるのか。

あなたは立つのです。主の中で、その力にあって、あなたは強い。

皆さんそれぞれが、“恐れ”の部分の他のことに変えて構いません。

“鬱”はどうでしょうか。

私の事で申し訳ないですが、私もこれまで、実に何度もありました。

毎日を過ごしていて、本当に突然、まさに“落胆”がやって来る。

落胆は絶望になり、それが本格的な鬱になっていく。

私は自分を地球で一番祝福されている人間だと思っていて、落胆する理由などないし、何にも誰にも原因を辿ることはできません。

その時、気づくのが、「**あなたがたの敵である悪魔が、吼えたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています。**」(1ペテロ 5:8)

サタンは私たちにまとわりつき、攻撃しようと最適な時を待っているのです。タイミングを。

サタンは、あなたが疲れている時に最も弱いということを知っています。

私と妻は、「疲れている夜は、重い話題は決して話し合わない」と何年も前に決めました。

いつも言い争いになってしまうから。

我々牧師はこれを言い争いとは言わず、“緊迫した分かち合い”と呼びますが。

とにかく、私たちは朝まで待ちます。

主のあわれみみは朝ごとに新しい。(哀歌 3:23) ですから。

夜はぐっすりと寝ます。すると、全てが変わりますよ。

それから祈って、問題に取り組みます。

サタンは私たちが最も弱い時を知っていて、まさにその時、攻撃してきますが、恐れずに、イエスの御名によって立つのです。

祈りましょう。

天のお父様、あなたのみことばに感謝します。

みことばの具体性、正直さ、高潔さ、誤りが全くないことに感謝します。

主よ、今日ここにいる、霊の攻撃を受けている全ての人のために祈ります。

あなたが彼らの心を励まし、強め、力を与えて下さい。

主よ、彼らが頭を上げ、立ち、勝利の生活を送れますように。

イエスの御名によって。アーメン

.....

「今日、もし御声を聞くならば、あなたがたの心を頑なにしてはならない。」(ヘブル 4:7)

メッセージ by JD Farag 牧師

カルバリーチャペルカネオヘ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 Rumi